

尾鷲市地方創生会議 議事録

目 的	令和4年度尾鷲市地方創生会議
日 時	令和4年11月11日（金）18:00～20:30
場 所	尾鷲市役所 2階 会議室

内 容
出席委員：紀北信用金庫 常勤理事 奥村 浩之 尾鷲商工会議所 会頭 北裏 大 尾鷲市婦人の会連絡協議会 会長 塩津 史子 尾鷲市林業振興協議会 会長 田中 基康 株式会社ZTV 東紀州放送局 顧問 中西 加寿代 尾鷲公共職業安定所 所長 中村 克彦 株式会社三重ティーエルオー 取締役副社長 松井 純
市出席者：政策調整課 課長 三鬼 望 企画調整係長 山本 圭蔵 地域創生係長 錦 正和 主査 川上 真 水産農林課 課長 芝山 有朋 商工観光課 課長 森本 眞明 生涯学習課 課長 平山 始 福祉保健課 課長 山口 修史 健康づくり係長 東 弓子 防災危機管理課 課長補佐兼総合防災係長 大和 秀成 尾鷲総合病院総務課 課長 高濱 宏之
【事項書1 開会】
【事項書2 尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について】 【基本目標1について 事務局川上より説明】 本市総合戦略については、「まち・ひと・しごと創生法」の成立に伴い、平成27年、少子高齢化の進展に対応するとともに、人口減少に歯止めをかけることなどを目的に策定し、当初平成27年度から令和元年度までの5年間、総合戦略に基づき、各種取り組みを進めてまいりました。 また、令和元年度には、見直しとともに2年間の延長を行ない、令和3年度までの計7年間の取り組みとして進めてまいりました。 これら地方創生に取り組む地方に対しては、交付金や補助、交付税措置や企業版ふるさと納税制度の対象事業とすることが出来るなど、財政支援もあることから、総合戦略を策定し、地方創生を推進する事は、本市においてメリットのあるものとなっており、これまで取り組みを進めてまいりました。 本日の会議では、総合戦略の最終年度である令和3年度の取り組み結果をご確認いただき、地方創生に効果があったのかをご検証いただければと思います。 それでは本題に入りまして、尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について、資料に沿って説明させていただきます。資料1-1「令和4年度版尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート」の目次をご覧ください。総合戦略は4つの基本目標からなっております。「安定した雇用を創出する」「新しい人の流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域

を作り、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の4つです。1ページをご覧ください。基本目標1「安定した雇用を創出する」について、まとめております。

まず、上段施策概要・目的については記載のとおりでございます。

次に、指標について、一つ目の「市内事業所への就業者数」についての目標値が4,923人の維持、これに対しての令和3年度実績値は、4,830人となっております。

次に2つ目の指標、「観光入込客数（過去3ヶ年平均値）」についての目標値が68万人、これに対しての実績値は、51万人となっております。

次に、中段より下、KPI（重要業績評価指標）の達成状況として、こちらは次ページ以降のグラフと資料の1-2に全てのKPIの詳細一覧を記載しておりますが、これを取りまとめたものとなっております。

令和3年度の目標値に対する実績値が、どの程度達成しているかを表示しております。

基本目標1については、KPIが26項目あります。

その内、

- ①100%達成しているものが11項目あります。
- ②100%未満から75%以上のものが7項目あります。
- ③75%未満50%以上のものが3項目あります。
- ④50%未満が5項目あるといったもの示しております。

その右隣の数値はそれぞれの割合です。

すべての項目において、100%達成を目指しておりますが、令和3年度末では、100%に到達したものが、全体の42%にとどまっております。特にKPIの達成度が50%以下のものについては資料1-2の真ん中ほどの欄「KPIの達成度が50%以下の場合、その理由」に」記載しております。やはりイベントや人が集まる事業をKPIに設定しているものについては、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったと考えられます。

KPIの右の取組項目(小)の今後の方針については、次ページ以降のグラフの下段の「今後の方針」、同じく資料1-2の右から3番目の「今後の方針」欄に記載しております①から⑤まで方針の数値を表したものです。

基本目標1では、

- ②事業内容の見直しを行うが6項目、
- ③の特に見直しをせず事業を継続するが4項目となっております。

一番下の欄については、この地方創生会議からの意見等について記載する欄となっておりますので現在は空欄となっております。

参考までに昨年度の会議で、令和2年度の検証をしていただいた際の結果は本日お配りしました、『昨年度資料：令和3年度版尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート』に記載ありますので、ご覧いただければと思います。

資料1-1の、2ページから11ページまで、基本目標1に対する各取組み項目をグラフで記載しており、また詳細な部分につきましては、資料1-2に、この「基本目標1」に対してのKPIの現状値と目標値、実績値及び事業効果や主な事業、今後の方針とその理由など記載しておりますので、ご不明な点や疑問に思う点がございましたら、ご質問いただけると幸いです。

説明は以上です。

(質疑・意見)

松井座長

ひとつ提案がありますが、さきほどの50%以下の理由を読み上げていただくことは可能ですか。

事務局川上

はい、資料1-2をご覧ください。「養殖ヒロメ生産量」の実績値が43%となっておりますが、この理由が「冬の高水温等がヒロメの成長に悪影響を与えたと推測される。」となっております。

「調理体験の実施（市内中学校生徒）」の実績値が30%となっており、その理由が「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための身体距離の確保が困難等の理由から尾鷲中学校の調理体験を中止し、輪内中学校のみの実施となったため」となっております。

「尾鷲産材を使用した住宅建設件数」の実績値が20%となっており、「新型コロナウイルス感染症の影響や世界的な木材価格の高騰や資材不足等により新築着工の減少も影響し補助申請が1件であった。」となっております。

「食のプロモーション実施回数」の実績値が50%となっており、その理由が「コロナ禍により予定していたものが中止となったため。」となっております。

「夢古道おわせ入込客数（過去3ヶ年平均値）」の実績値が44%となっており、その理由が「コロナ禍における休館の影響もあり、減少したと考える。」となっております。

「尾鷲まるごと観光物産ウェブのページビュー数」の実績値が38%となっており、その理由が「コロナ禍により、旅行プラン等を検討する人が減ったことが影響したと考える。」となっております。以上です。

松井座長

50%以下の理由は、今紹介いただいたとおり、ほぼコロナの影響であつたり、海産の生産物については高水温であるとの理由が述べられています。

中西委員

市内事業所の就業者数が、令和2年の4,953人から令和3年の4,830人に落ちているが、コロナの影響ということですか。またどのような職種で落ちているかは分かりますか。

森本課長

内部情報から纏めたもので、個別の職種までは把握できていないところです。ただおそらく人口減等複合的な要素であると考えており、すべてがコロナの影響ではないと思っています。今年においても上下があるようであれば、コロナの影響もあったのではないかと推測できると考えており、注視しているところです。

塩津委員

2ページのマハタの生産量のところ、ピークが160トン、令和3年が少し少なくなっているのは、高水温ですか。

芝山課長

マハタの生産については、直近値の影響は高水温化がかなり大きいです。この3年ほど、冬場でも2度ほど高い状況が続いており、海水温で2度というと相当な影響力と専門機関からも聞いております。それに伴う病気などで出荷前に死んでしまうという状況がしばらく続いています。

全体的な流れとしては、マハタの生産が確立し出したのが平成24年度くらいからで、その時は種苗の数も一気に増やしていったのですが、その後は平成30年度くらいを境に流通も落ち着いてきて安定供給に繋がっています。あまり生産が過剰になると値段が落ちるという状況が、1次産業では出てしまいますので、そのあたりのバランスを市内水産業者とも相談しながら調整しているというのが今のベースですが、直近で言いますと高水温の影響が大きい状態です。

松井座長

コロナということで、取り立てて生産調整はしていないということですか。

芝山課長

マハタの場合は、都市部のスーパーに出回っているのは順調に伸びているところです。

松井座長

生産量が落ちたということは、流通量も落ちているということですね。

芝山課長

落ちています。その代わり、単価が逆に上がっています。

中西委員

新聞にマックスバリュでやることが載っていました。

芝山課長

水産庁から出向で調整監に来ていただいており、かなりこの2年間精力的にマハタのPRを行って

いただきました。来週からマックスバリュでキャンペーンをして、併せてテレビでも取り上げていただきます。

中西委員

この地域でもやってほしいですね。

北裏委員

就業者数ですが、企業ベースでいくと人手不足感がありまして、全国的にもそうなんでしょうけども、抜本的に尾鷲は人口が少ないので、流動性がないのかなとも思っています、増やしたいところです。

中村委員

現状として、求人数はどんどん増えています。ただし求職者数がどんどん減っています。その中で尾鷲の各年代の人口割合を見ていると、70歳代が一番多いんですね。いわゆる就業人口である15歳から65歳がどんどん減っています。0歳児が50人から60人くらいで推移していて、その状況がずっと続くと当然就業人口が今後減っていきます。その方たちが外に出ていってしまうと、新たに流入させるような、尾鷲で働きたいという方が入ってこない、人口減がどんどん進んでいきます。

北裏委員

この就業者数には、外国人労働者も入っていますか。

森本課長

税情報から纏めております。尾鷲市民の方で集計していますので、給与支払報告書に入っている方であれば入っております。

北裏委員

水温の温暖化については、最近尾鷲で沖縄のグルクンが獲れているんですよ。うちのお店でも売っていたのでびっくりしました。えらいことになっているかなと。

松井座長

だいたい空気の1度上昇が水中の3度くらいになって、2度だと6度上がっているから、サンマは暑くて来ないですね。

奥村委員

実績達成率が50%に満たないというところで、特に見直しをせず継続していくだけでいいのかなと感じています。コロナが解消してくれば、ある程度改善が見込めるという理解でよろしいかというところと、去年の資料の中で、「マハタについては、市民のロコミ等による発信力が大きな力となるが、食経験のない市民も多いことから、市内向けに流通できるような工夫を検討してもらいたい。」という意見がありましたが、この対応は何かできていますか。

芝山課長

市内の流通につきましては、去年、マハタの井を商工会議所と一緒にあって市内の飲食店12業者ぐらいに作っていただいて、そこでグランプリを決めるという取組をさせていただき、できればそれを定番メニューに載せていって欲しいという形を取っております。全部のお店ではないですが、いくつかのお店では定番メニューとして置いていただいております。

市内にたくさん流通させたいという意見につきましては、業界の皆様方の戦略にもよりますが、大衆魚的な売り方を今のところしたくないという捉え方をしております、出来るだけ付加価値の付いた、価格をあまり下げたくないというような売り方でもう少し検討させていただきたいということなので、スーパーで一般的に流通させるということは、キャンペーン的にはさせていただきたいと思っておりますが、常時というところについては、価格帯が日常的には合わないのかなというところが出てきております。ただ、飲食店等で料理として使っていただくというところについては、付加価値の付いた価格帯の設定はできるであろうということで、そういう取組はさせていただいております。

北裏委員

一物二価でもいいんじゃないかなと思います。市内で売る値段と、市外、都市部で売る値段が違って
もいいんじゃないかなと。

芝山課長

スーパー系の流通のさせ方と、飲食店系の流通のさせ方では、価格設定や流し方が違ってくると思
いますので、そのあたりはまた検討はさせていただきたいと思っています。ただ、市外のスーパーでキャ
ンペーンをさせていただくという考え方で、もちろん市内のほうも同じような取り組みを、ぜひさせ
ていただきたいと思っています。

松井座長

二重価格、二つの系統というのは、可能であれば検討していただくということでお願いします。

芝山課長

そうですね。このあたりは中間で入っていただいている市内水産業者の意向、戦略にもよると思
いますので、こういう意見はどんどん出させていだきたいと思っています。

松井座長

50%以下で、特に見直しをせずそのままというところは、コロナが解消すれば改善していくとい
うことでよいかという意見についてはどうですか。

芝山課長

水産農林課の場合は、高水温化、環境変動、気候変動のところについて、特にヒロメについては、数
字的には3トンという実績値になっていますが、これは大曾根浦で獲れているヒロメの量で、これは南
伊勢以南の漁場にすればすごくいい数字になっています。取り組み全体の考え方としては、見直しをせ
ずに事業を継続するというふうにさせていただいていますが、細かなことを言いますと、大曾根の漁場
の中でも潮の当たる場所、当たらない場所など、毎回ロープを張る場所を変えながら、どこが一番生育
状況がいいかというのは、毎年漁師さんと相談しながらやっているもので、そういう面では考え方を
変える方向ではないですが、適地を選んでいくという取組はさせていただいております。

コロナの影響によるということでは、尾鷲中学校、輪内中学校での調理体験、食育というところ
がありますが、これについては、学校長の考え方、生徒の人数・規模感がありますので、学校と相談し
ながらになりますが、コロナが落ち着いて、コロナの中でも様子を見ながら随時できるような形は探
りたいということで、特に見直しはせずとさせていただいています。

塩津委員

先日、マハタのフライを給食で出して、子どもたちが大変喜んでるのが載っていて、こういうふう
にしてもらったんだなど見させてもらいました。夢古道の海鮮丼を頼めばマハタが入っているかなと思
い友達と行ったのですが、入ってなくて残念でした。随分前に婦人会に無料提供してもらって、県外
から見えた人限定でお出ししたことがあって、おいしいと言われて。また食べたいので、市内でも流
通して欲しいなと思います。

松井座長

生産量を安定させないといけませんね。

中西委員

食べに行っても、前もって予約していないと出てきませんね。

芝山課長

予約なしで食べられるお店もありますが、ほとんどのお店が予約をしないと難しいようです。

塩津委員

海鮮丼あたりに少しでも出してくれるような形を取っていければと思います。

芝山課長

そのあたりは私たちも飲食店の方とうまく折衝したり、例えばマハタが食べられる宿などの取り扱いもさせていただいて、まだ実績としては出ていないのですが、そういう動きはさせていただいています。もうひとつは先ほどおっしゃっていただいた給食への取り組みは、コロナの交付金を活用し、保育園・幼稚園・小学校・輪内中学校に対して、尾鷲の特徴的な魚、例えばブリやタイ、そこにマハタも入れた形で給食へ出しておりまして、それも食べてもらうだけではなく、尾鷲にとってどういう魚なのかということ職員が現場に出向いて、食育授業をしてから食べてもらうという取組を水産の方でやっております。一方、農林の方でも、木を使う同様の取り組みを、木の説明をしたうえで木工をしてもらうという取組をコロナ交付金でやらせていただいています。

中西委員

Fish-1 グランプリの反響はどうでしたか。

芝山課長

普段は日比谷公園でイベント的にやるのですが、コロナ禍ということで冷凍のインターネット注文の数を競い、それで準グランプリをいただきました。そのおかげもあって、そのお店は市外からの問い合わせやお客さんが増えてきていると報告を受けています。

中村委員

養殖ヒロメの流通、消費地は、県外などの都市部を想定しているのか、それとも地元を想定しているのか。

芝山課長

ヒロメを食べられているエリアは、三重県の南部、志摩の方から和歌山にかけてというところで、和歌山の方は天然ものも今まで多かったのですが、この数年高水温で全然獲れないということで、仲買さんの話を聞くと、和歌山の方によく出ていると。大曾根で獲れたものは全部市場に出して、そこでせりにかかります。

北裏委員

うちでもよく売れています。もともと尾鷲では食べられている。

芝山課長

市内がメインですけども、市外を聞くと和歌山の方によく出ていると思います。

北裏委員

乾燥のほうもあるじゃないですか、これ結構、よその方のお土産シリーズで出ているのでいいですね。テレビ局に言うとすぐ食いつきます。テレビ局には、コンブとワカメの両方を一気に使えると。ワカメの食感とコンブのだしが両方できるのがヒロメだということをやっています。

松井座長

志摩半島の真ん中あたりから南側がヒロメで、北側がワカメなんです。ただ、北にどんどんヒロメの勢力が上がっていっているのが現実なので、今後は競争の激化が考えられます。そういうことがあるので、提案というか質問なのですが、高水温が原因とするとたぶん下がらないので、高水温への耐性を持った種苗を作らなければいけない。以前はアオサ(ヒトエグサ)は人工種苗で作っていました。今は天然で作るようになったんだけど、昔はわざわざノリの種を付けてから出していたんです。尾鷲でずっと継続的にするためには、ヒロメもそれをしなければならぬと思います。そのためには事前に研究費もちゃんと作って、県の水産研究所や三重大にも海藻の先生がいるので、そういうことを先行的にやっていく必要があるのではないかなというのがひとつです。

それからアオリイカのヒノキの産卵場を設置するというのですが、資源自体に増減があるのなら、これは考えなければならぬと思います。アオリイカの資源状態をまず把握して、産卵場を作ろうが作るまいが付かなかつたら、これをやっても無駄ですから、そのへんを加味して考えなければならぬのではと思います。

水質調査については、逆にニーズが高まっていると思います。だから継続が必要だけれども、もっと拡大しなければならぬのではないかと、もっと細かく漁師に知らせるようなシステムが必要なのでは

ないかなと思います。

調理の実習についてはできなかつたんですけど、これからどんどんオミクロン株も変化して行って、本当にできるかというできなくなってくると思うので、WEBでの実施も考えて、例えば家庭にマハタの料理の先生が行って、家庭的なところを映して学校に配信するといったような手立てをやると実感がわくので、そういうことにも取り組みを移していく、親子で取り組む、家庭で取り組むというふうにしていくといいと思います。

住宅については、去年は建築数はゼロだけど木材の使用は増えているという報告があったと思いますが、その後もその傾向は続いていますか。

芝山課長

現在、ウッドショックは収束してきているとは聞いていますが、まだその傾向は続いていまして、今回、令和4年度でこの補助金制度は見直しさせていただきました。今までは、尾鷲らしい工法計画の家ということのをベースにして、構造の細かいところまですぐ指定のあった補助金だったのですが、それを全部撤廃しまして、まずはヒノキを使うこと、リフォームもOKという形で、新築以外も対応できると。移住ニーズも高まっていますので、おわせ暮らしサポートセンターとも連携しながら紹介してもらおうというやり方に変えさせていただいて、少しでも尾鷲ヒノキを住宅に取り入れてもらおうとしております。

松井座長

市役所の前もヒノキのものに変わった。ああいうので、尾鷲の家は尾鷲ヒノキでデザインされるというふうなものを広げたらいいと思っています。

6ページに、都市部へのプロモーションと書いていますが、都市部とはどこを指しますか。

森本課長

県内の中勢、北勢、県内の都市部として進めております。

松井座長

県内アピールをぜひしていただきたいと思います。大阪や東京を目指すよりも。

【基本目標2について 事務局川上より説明】

それでは、資料1-1の12ページ、基本目標2「新しいひとの流れをつくる」について説明させていただきます。

施策概要・目的については、記載のとおりです。

次に、指標について、一つ目の「定住移住に係る行政窓口を活用した定住移住者数(累計)」について目標値が7ヶ年累計で260人、これに対しての実績値は、413人となっています。

次に2つ目の指標、「定住移住相談の実施件数」について目標値が80件、これに対しての実績値は、38件となっています。

次に、KPIの達成状況として、基本目標2については、KPIが8項目あります。

その内、

- ①100%達成しているものが4項目
- ②100%未満から75%以上のものが0項目
- ③75%未満50%以上のものが1項目
- ④50%未満が3項目となっております。

令和3年度末では、50%のKPIが目標を達成しているということとなっております。

こちらにつきましても、資料1-2の2枚目の真ん中の欄に、「KPIの達成度が50%以下の場合、その理由」を記載しております。

「仕事付移住体験制度の実施」の実績値が0%となっておりますが、その理由が「コロナの影響もあり、募集も少なく、応募される方がいなかった。」となっております。

「空き家バンクへの登録数」の実績値が39%となっておりますが、その理由が「高い目標をもって、固定資産税の納付書に空家バンクスタンプを押し、またホームページでPRするなど努めたが、コロナの影響もあり、サポートセンターに訪れる人の減少から、登録件数も減少した。」となっております。

「定住移住フェアへの参加」の実績値が0%となっていますが、新型コロナウイルス感染症拡大にもない、フェアへの参加はなかった。」となっております。

資料1-1の12ページに戻っていただきまして、KPIの右の取組項目(小)の今後の方針については、

①事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させるが1項目、

③特に見直しをせず事業を継続するが3項目となっております。

こちらにつきましても、13ページから16ページに各取組項目のグラフ及び、資料1-2の2枚目に詳細が一覧で記載されております。

基本目標2につきましても、以上でございます。

(質疑・意見)

中村委員

定住移住相談の実施件数38件ということですが、この中で実際にこちらに移住された方は何名くらいいらっしゃいますか。

錦係長

今手元に数字が無いのですが、人数ではなく世帯数になりますが、空き家バンクで成約する世帯数が月に3~4件ほどございます。その中の60%ほどが市外、県外からの移住者というようになっていまして、例えば年間48件の60%とすると、30世帯くらいがこちらに見えていただいたという形になります。

中村委員

その30世帯の方たちは、なぜ尾鷲を選んでくれたのですか。

錦係長

海が見える、海に近いところで暮らしたいという方というのが、一番多く聞かれるところです。

中村委員

尾鷲に来たこと、住んだことがない方が大方ですか。

錦係長

もともと尾鷲にいて、1回外に出てまた戻ってきたという方も見えますし、今ホームページ上の空き家バンクで43件ほど物件を出していますが、そちらを見て初めてよそから来て問い合わせというのが多いです。

中村委員

年代的にはどうですか。

錦係長

概ね50歳以上の方が多く見受けられます。

松井座長

そこがちょっと残念なところで、若い人が来るといいと思いますが難しいですね。

中村委員

そうですね、30代とかを期待したのですが。

松井座長

子育て世代が来るといいですね。

中村委員

そうすると仕事の後継者も育ってきますので。

北裏委員

今コロナで、都心に近いあたりだとリモートワークで都心から行くという話を聞きますが、尾鷲はちょっと遠すぎますかね。

中村委員

あまり距離は関係ないみたいですね。ネットで全部できるようであれば。例えばパソナは淡路島に移りましたが、東京の方にいたい人は、東京からやってみえと。ネット環境さえあれば、距離は関係ないので。

北裏委員

二重生活というか、ウィークデーは名古屋にいて、土日だけこちらにという方もいますか。

錦係長

そういう方も実際に見えます。

松井座長

それもいいですね。

中村委員

来てもらったら消費に繋がりますしね。

北裏委員

定住移住フェアはできなかったのか、やったのだけどいかなかったのか。

錦係長

実際には定住移住フェアは現場でやっていたり、リモートでやっていたりというのはあるのですが、令和3年度については、そちらに参加させていただけなかった。大阪で年間10件ほど、名古屋で年間5件ほど、東京で年間3件ほどあるのですが、中心部ということもありまして、参加させていただけなかったという状況です。

奥村委員

リアルなフェアではなく、ネット上で尾鷲の魅力を訴えて定住を促すようなことはありますか。

錦係長

そういうことはやっていく必要があると思っています。ユーチューブで尾鷲の魅力発信を常にやっている等の状況ではあるのですが、移住フェアという形で今回参加できていなかったのは、申し訳なかったと思っています。

北裏委員

須賀利のあたりで、古い家を釣り人が4~5人で買って、釣り用に使うという話を時々聞くのですが、それはこれとは別の話ですか。

錦係長

空き家バンクを使われたかどうかは把握していませんが、実際に釣りが好きな人で空家バンクを使う方も見えます。先ほど言われたような二拠点の生活ですね、週末こちらに来て釣りをしている方も見えます。

松井座長

ユーチューブをせっかくやるんだったら、住んでいる人の実像を発信して、そういうテレビ番組も今多いですね。そうするのにぜひ補助金を取っていただいて、ユーチューブを作り、一人一人の生活を発信する。いいことばかり言うとかえって不審がられるので、悪いところも入れないといけませんけど、それは工夫してやられたらどうかなと思います。

田中委員

ふるさと納税の件数はどんどん上がっているのは、何が上がっているのですか。

三鬼課長

ふるさと納税については、定住移住に基本を置いた関係人口づくりのネットワークとして、尾鷲に関わっていただける方、尾鷲を応援している方のつながりから広まっているところもあります。ですが第一の基本は、地域の事業者様と尾鷲の魅力を発信できるような返礼品づくりが基本となっていて、そこで尾鷲ならではの返礼品をつくり上げることによって、急速に伸びていったのは、事業者様の努力と関係者様のご協力のおかげだと思っています。

ふるさと納税の制度は、そのままでは中々継続して達成できないこともありますので、常に革新を加えたり、磨き上げていくということをしないとイケませんので、今後も地域の事業者様と色々な返礼品をつくり上げていきたいと思っています。

北裏委員

尾鷲のふるさと納税を見ても結構お得感があって、全国の色々な返礼品を見て、人気が出るとどんどん来るという状況で、うちでもいろいろやっていますが、その市町村を知らないけど、商品だけ見てやっているような格好ですね。

三鬼課長

俗に言う訳ありとか、色々なキーワードで検索していただく形ですね。

北裏委員

その中でも多分一番売れているのが、尾鷲物産のサーモンの切り落としです。

松井座長

サーモンは全国的に売れていますね。

北裏委員

すごいのは宮崎のゴルフのセットとか、コンピュータの会社がある長野の方だとパソコンまで扱っている事です。

松井座長

だから先ほどのご質問の答えは尾鷲物産の参入ですね。ものすごく上がりましたものね。9,000万円代から何億になりましたか。

三鬼課長

4億円くらいまで上がっています。

松井座長

ヤーヤ便もあがっているんでしょう。すごいです。これは真水でお金が出るのでものすごく大きいと思います。

塩津委員

定住移住で、農業でもみかんづくりに家族で見えた方も落ち着いてやってみえるし、漁業関係でも結構若い方も定置網なども関わってくれている人もみえる。数字を見ても分かりますが、結構尾鷲は定住移住は成功しているのではないかと思います。

募集している時じゃなくても、自分の足で尾鷲に見えて住んでいる方もいたりするので、そういう方も手厚いサポートを行政の方でやっていただきたいなと思うところもあります。募集した時の人には手厚くだと思いますが、それ以外の方はそんなにやってもらってないということを聞いたこともありますので、尾鷲を目指して来ていただいているんだったら手厚くサポートをしてあげていただきたいなと。テレワークしながら漁業関係をしている人が近所にいるので、地域コミュニティの理解も必要だと思いますが、やはり行政の力は大きいと思います。

錦係長

移住していただいて、あまりにもうまくいかないという方も見えてくると思います。現在尾鷲市の方で、移住してきた方や移住を考えている方を中心にしたイベントをやって、人と人を繋げるということをやっています。3回ほどやらせてもらっていますが、そういった人との繋がりの中で、尾鷲に定住していただけるというような関係ができていけばなと思っております。

塩津委員

お友達が欲しいので紹介して欲しいというときに、そういうような集まりがあれば繋がりができますね。

錦係長

インターネットや地元の新聞を通して、広告を打たせてもらっています。

塩津委員

尾鷲はこういうことをやっているということを、常に発信していくことが必要ですね。前に若い方とお話することがあって、どんどん発信していくことが必要ですねというコメントもございましたので、そのあたりもぜひやっていって欲しいです。

中西委員

定住移住に係る行政窓口を活用して定住移住された方が、コンスタントに毎年あるのがすごいと思うんですけど、定住移住相談の実施件数が今回38件というのは、フェアに出ているらもっと増えているのでしょうか。

錦係長

もちろんフェアに出れば若干増えるとは思いますが、それ以上にコロナで警戒したというのが一番大きかったというふうに考えております。

中西委員

令和2年もコロナでしたが、ここは割とありましたね。

錦係長

あの当時は、東京の方や大都市の方がどんと増えたということで、一度地域の方に目が向いたのではないかなというふうに考えております。

松井座長

13ページですが、尾鷲高校との連携というのはよくわかりますし、「まちいく」というのをやられていて、それはすごく成果があると思うんですが、尾鷲の自然・文化が好きになるというのはわかりませんが、ここに尾鷲の企業が好きになるとか、尾鷲の産業が好きになるなどを入れて、定住を図らないといけないと思います。

もうひとつ、尾鷲高校だけではなくて、尾鷲出身の他地域への高校生、これは18歳になると東京とかに行ってしまうので、地元を知る機会がほとんどないですね。だけど何らかのつてやイベントなどで、尾鷲に戻ってきたらこういう企業・産業があるんだよということをきちんと伝えていかないと、わからないです。商工観光課の職員にインタビューしたら、22歳になるまで尾鷲にどんな企業があるか知らなかったと言っていました。それはものすごく切実な現実です。私もそうです、私も田舎でどんな会社があるか知らなかったです。やはり就職ということがあって初めて考えるので、でも外へ出ていく人に帰って来いと言うにはそれでは遅いので、尾鷲高校だけではなく、尾鷲出身の高校生をいかに教育していくかということ、自然・文化だけではなく、産業や企業を何とかして紹介していくということ。あるいは生活の実態とか、例えば都会で4人家族でどういう生活実態で、尾鷲はどうかということ、観察すれば、尾鷲はのびのび暮らしているんだなということが分かると思うし、そういうところまで踏み込んで尾鷲高校のまちいくに加えていけばどうかと考えます。

中村委員

尾鷲高校の2年生をバスに乗せて、企業見学を今やっています。

松井座長

はい、それは私たちも提案をずっとしてきました。高校生だけではなくて、高校の先生も教育していただかないとダメだし、私は一番悪いのは親だと思うんです。尾鷲の親御さんが尾鷲の企業をよく言わなかったら、子どもは絶対尾鷲の企業に就職しようとは思わないです。だから尾鷲の親御さんを教育というのはおこがましいですけど、こういう企業がこういう展開をしているということを公民館とか、スーパーでもいいんですけど、こんな企業があるという紹介を尾鷲市内でやるということが大事なんじゃないかなと思います。

中村委員

中学生の就業体験はやっていないのですか。

松井座長

やっています。インターンシップのようなものですね。

中西委員

うちの会社は今もうやらなくなったのですが、最初できたころは小学生から来て、ビデオ、パソコンとか、就業体験の中学生も来て、別れ際にこの中でまたここでアナウンサーやってくれる子が出てくるかなとか一緒に仕事する人が出てくるかなという話をして、20年間の中で2名、その中から来てくれました。

松井座長

貴重だと思います。だから親御さんに尾鷲の企業を否定させない、肯定させる。キャッチフレーズを考えたんですよ。「尾鷲の一番の宝物はあなたたちだ。」尾鷲の宝物イコール高校生だとか、子どもたちだということを親にも浸透させる。人口が無かったら存在しないですから。

塩津委員

教育委員会にも書いてありますね、子供は地域の宝物。

松井座長

そうですね。その宝物を残す手法として、文化とか自然はどこでもありますからね。やはり会社とか産業がどうかということが大事だと思います。

ふるさと納税のところでも16ページに、「ふるさと納税事業の必要性について出品事業者を認識させることで、ふるさと納税事業の情勢を図」と書いていますが、この醸成を図るのはあまり必要ないのではないかなと思っているんですが、「寄附の用途を明確にすることで・・・共感できる、ふるさと納税」にする、これはあまり必要ないと思います。なぜかという、こんなところで納税する人はほとんどいないです。東京の人が選ぶときに、いいことやっていると言って納税する人は多分少ないです。私もふるさと納税に携わって7年やっていますが、芸西村という村まで調査に行きました。3,700人の村が13億円上げているんです。そこを調査したんですが、そんなこと一切考えていない。クリックをいかに稼ぐかです。他の物も良いことをアピールする、売れてる商品が二つあるんだったら、その売れてる商品に乗っかっていく。松阪で一度言ったことがあるんですが、松阪牛は爆発的に売れているんですね、十何億円出している。松阪牛にはこのこんにやくを使いなさいとか、ただのこんにやくだとクリックしないですよ。松阪牛のすき焼きにはこのこんにやくと書いてあると、どんなこんにやくだと思ってクリックするじゃないですか。だから売れているところに乗っかって、そういう名称をつけるようにした方が有効です。

三鬼課長

ポータルサイト、楽天とかふるさとチョイスとかいろんなところで特集を組んでいただくことで、尾鷲市を知っていただくときに、例えば寄附者の方にこの納税をどういう方面に使っていただきたいか、アンケートを必ず取るようにしています。そういうところで特徴ある取り組みをしていることをアピールすることが大切だということもあります。

松井座長

わかります。行政の立場としてはそれを否定できないのはわかります。実際、私の娘は28歳なんですけど、一切見ていません。

北裏委員

それより売れ筋ベスト10とかですね。

松井座長

それは絶対見ます。そこで教えてもらったことなんですけど、意外に水と米が出ているんですよね。理由を聞いてびっくりしました。重たいからです。スーパーで買ってアパートなんて重たいから、ふるさと納税で頼むと宅配便で来ますね。そういう理由って、突き詰めないと出てこないです。すごく面白いです。

【基本目標3について 事務局川上より説明】

それでは、資料1-1の17ページ、基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、説明させていただきます。

まず、施策概要・目的については記載のとおりです。

次に、指標について、一つ目の「合計特殊出生率（過去五か年平均値）」についての目標値が1.85、これに対しての実績値は、1.59となっています。次に2つ目の指標、「子どもや子育て支援への満足度」についての目標値が3.10、これは市民アンケートの結果を数値化したものですが、これに対しての実績値は、2.80となっております。

次に、KPIの達成状況として、基本目標3については、14項目あり、その内、

- ①100%達成しているものが9項目
- ②100%未満から75%以上のものが3項目
- ③75%未満50%以上のものは、2項目
- ④50%未満が0項目となっております。

令和3年度末では、64%のKPIが目標達成しているということとなっております。

50%以下が0ですので、資料1-2には、50%以下の理由はございません。

KPIの横の取組項目（小）の今後の方針については、

- ①事業が効果的であったことから取り組みの追加等さらに発展させるが1項目
- ③特に見直しをせず事業を継続するが6項目

となっております。

こちらにつきましても、18ページから24ページに各取組項目のグラフ及び、資料1-2の2枚目に詳細が一覧で記載されております。

以上で基本目標3の説明を終わります。

（質疑・意見）

中西委員

妊娠から出産して5歳くらいまでの支援はかなり活用されていると思うんですけど、やはりその前後が、中にはどうすればいいのかというものがあると思います。

東係長

今おっしゃっていただくことはその通りだと思っております。妊娠前になりますと把握は難しいので、治療というところでは関わらせていただいているのですが、今年度から保険事業になっておりますので、かなり把握することが難しいところがございます。お金の面だけでなく、精神的な支援というのも大きなところがあるのではないかと考えているのですが、そこまで十分な支援自体もできていないという状況です。

出産された後、子育てのところでいきますと、就学までのところが大きな子育て支援になるのですが、就学してからは学校の中での支援が大きくなってしまっているところで、そこからの子育て支援としての取り組みが強化された見直しが必要ではないかなと考えているのですが、なかなか具体的などころが、精査していかなければいけないかなと考えているところです。

中西委員

それも重要ですが、やはり出会いとかが問題かと。それがなければ何も始まらないわけです。

山口課長

出会いの場の創出というのが、尾鷲市では現状やっていないところです。以前はそういったイベントをやったこともあるのですが、土地がらで、尾鷲の方同士が尾鷲でとなると人目を気にするところもあり、なかなかうまくいかないというケースもあって、今後はそのあたりも検討していきたいと思います。

塩津委員

やはり、よその地域との交流ということですよ。

山口課長

広域的な考え方が必要なのかなと思っています。

中村委員

昔、うちの職場で、尾鷲とか熊野に若い子が転勤すると、大体結婚して連れてきてというのがありました。どうやって出会ったのと聞くと、臨時の方の紹介で知り合ってそのまま結婚してと。そういったのが最近ないですね。うちの職場関連のところで、20代30代が何人かいるんですが、遊びに行くところがないので、若い人と最近口きいていないと言っています。そうすると高校生とかも外に出て行ってしまうというのがあるのかなと思います。

北裏委員

この3年くらい、コロナで外食に行ってはいけないということがありました。全国的に若い人がうつになってしまったりして。それはそうですね、会社と家を往復しているだけで、友達とも話せないということなので、この3年間くらいは特殊な事例が起きているのかなと思います。

松井座長

特に介護をされている方などは、まったく外部と遮断されますからね。三重大の大病院では家族に感染するといけないから駐車場で車に寝泊まりしている人もいました。すごく過酷な2年間でしたね。

北裏委員

合計特殊出生率ですが、目標値1.85というのは理想なのですか。

松井座長

いえ、これは減っていくということですね。

北裏委員

本来人口を維持するためには、2.03とか2.06とか言われていまして、そもそも尾鷲の実績値は全国平均より低いのですか。

東係長

県で見れば少し高いのですが。

三鬼課長

結論から言うと、国よりは高いです。

東係長

この前発表されたのが、1.30ほどです。

北裏委員

都会の方が低いでもんね。

奥村委員

数値が上がらないけれど、K P I の達成状況は結構いい。設定の仕方が難しいのかなと思います。

松井座長

今、産婦人科の先生と取り組んでいて、これは大事だなと思ったのは、産む意志のある人を大事にしなければいけないということです。要するに1人目がうまく育てられると、2人目も欲しいとなるわけです。1人目のケアがうまくいってないと「もういいわ」となるわけで、だから1人目の苦痛をいかに排除するか。産後うつというのは今言われていますけど、それに対応するのは東さんの方で努めてられると思いますが、それだけではなく、例えば病院で、育たず必死になって薬剤投与などで大きくなってやっと生まれた子供がいる、あるいは流産を抑えてやっと生まれた子供がいるとなった時に、情が入ってくるわけです。そういう時に、その苦痛をいかに肯定させるか、2人目を欲しがるようにするかというところを考えたらどうかと思います。そこのケアはなかなか今までやられていないと思います。

東係長

私たちが、産みたい・欲しいと思われる方、1人目産まれて2人目、3人目、4人目を欲しいと思われる中で、経済的な支援もあると思いますが、子育てが楽しい、幸せとっていただけるということが、今おっしゃっていただいたことかなと思っています。その中でも、リスクが高い方たちについては、医療機関との連携も、年間60～70人の出生数になっていますので、妊娠から顔の見える関係で医療機関とも繋がっていますので、事業自体は見直しをしないのですが、中身をもうちょっと充実させて支援をしっかりと関われるようにできればなと思っています。

松井座長

産婦人科の先生も勉強していただかなければいけません。新しい薬も出て、子どもが育たないというのをうまく育て、それを助けるという方法も出てきているので、そのような勉強会をしてもらいたいと思います。それで安心して1人目が生まれると2人目も可能性がある。私が一緒に働いている人で、4人目という人がいるので、可能性は広がると思います。

結婚からコーディネーションするのはすごく大変なことです。1人目が生まれた人を2人目、3人目としていく方が、まだ可能性はあるのではないかと思います。

中村委員

20ページに尾鷲っ子講座の開催とありますが、親が対象か子どもが対象か、どちらでしょうか。

平山課長

小学校の児童が対象です。

塩津委員

これは「いきいき尾鷲っ子」ですか。

平山課長

そうです。高学年も受け入れることもありますし、いわゆる放課後子ども教室、居場所づくりということで、講座という形で行っています。目標値に対して減っていますが、コロナの緊急事態宣言で3割くらい開催できなかった部分がありました。

塩津委員

結構熱心にやられて、私もお手伝いをしたことがあります。子どもたちも喜んでいました。この12月にも何かありますよね。

平山課長

HAPPY 事業ということで、各事業所さん、紀北信用金庫さんにも協力いただいて、お仕事体験という形で行います。今年度は21事業所さんにご協力いただきます。

【基本目標4について 事務局川上より説明】

それでは、資料1-1の25ページ、基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」とともに、地域と地域を連携する」について説明させていただきます。

施策概要・目的については記載のとおりとなっております。

次に、指標について、一つ目の「防災・危機管理の満足度」についての目標値が3.25、これに対しての実績値は、2.78となっております。次に2つ目の指標、「地域医療の満足度」についての目標値が2.71、これに対しての実績値は、2.43となっております。

次に、KPIの達成状況として、基本目標4については、KPIが11項目あります。

その内、

- ①100%達成しているものが4項目
- ②100%未満から75%以上のものが4項目
- ③75%未満50%以上のものが1項目
- ④50%未満は2項目となっております。

令和3年度末では、36%のKPIが目標を達成しているということとなっております。

こちらにつきましても、資料1-2の3枚目の真ん中の欄に、「KPIの達成度が50%以下の場合には、その理由」を記載しております。

「コミュニティーセンターが行う活動への述べ参加者数」の実績値が41%となっておりますが、その理由が「コロナ禍にあって講座を停止した期間の影響があり、参加要請をかけづらく、参加者が伸び悩んだことが原因と思われる。」となっております。

「コミュニティーセンター間での連携事業数」の実績値が15%となっておりますが、その理由が「コロナ禍にあって講座を停止した期間があったことや、感染状況の予測が困難で、開催予定を立てづらかったことなどが影響し、事業数が少なかった。」となっております。

資料1-1の25ページに戻っていただきまして、KPIの横の取組項目（小）の今後の方針については、

- ①事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させるが1項目
 - ②事業内容の見直しを行うが3項目
 - ③特に見直しをせず事業を継続するが2項目
- となっております。

こちらにつきましても、26ページから最後31ページに各取組項目のグラフ及び、資料1-2の3枚目に詳細が一覧で記載されております。

以上で基本目標4の説明を終わります。

（質疑・意見）

中村委員

交通事故発生件数ですが、新聞に、そもそも交通量が減ったので交通事故の発生件数も減ったと載っていました。減るのはいいことですが、ほかの所に影響してくるのかなと思いました。

防災危機管理の満足度で2.78となっております。うちのハローワークは海辺に建っていて、津波が来たらなくなっていくのかなと思いますが、その時の逃げる手段ですね。中村山に走って逃げてと言われていますが、その時にまっすぐ行くと細い道を通るので、そこは避けてくださいと言われてました。なぜかという、地震で屋根瓦が落ちてきたりという危険性があるので、できるだけ広い道を走ってくださいとのことなのですが、広い道を走ると遠回りになるんですね。その細い道を散歩していると、結構朽ちてきている家があります。そういったものが防災上心配かなと思うところです。

大和課長補佐

危険な建物というところでご指摘の通りかと思えます。そういったことを踏まえて、小学生を対象にしたタウンウォッチングをして、子どもたちの目線からいろんな危険なものや役に立つもの、逃げる方向などを自分たちで考えてもらいながら、防災職員や教育委員会の方々で助言しながら、まちの状況を子どもたちなりに把握した中で、自分たちの防災マップを作っていくって防災意識を高めてもらう取り組みを、もう10年くらいになってきていると思いますが、東日本大震災の後くらいから教育委員会でもかなり積極的に防災学習の時間を学校教育の中でも増やして取り組まれていますので、最初の頃のお子さんは20歳くらいになってきているのかなと。この先これを継続していくことで、その方々が子どもを作られて親になったときにまた、といった長い目で見ていくと尾鷲市の防災力はかなりついてきているのではないかなと思います。

松井座長

朽ち果てた建物については、使用期限があつて壊さないといけないといった法律が最近ありますよね。そういうものを強制執行するのはなかなか難しいと思いますけど、単純に素人考えで、ネットを張っておくとかができれば、逃げるときに瓦やがれきがこないように出来るのではないかと思います。

大和課長補佐

道路を通行する人を守るという意味合いから、建設課や空き家は市民サービス課が担当になるのですが、そういったところと情報共有しながら、瓦が落ちてきそうな家に対してはコーンやバーを置いて、危険であるという感じを周りの方に分かってもらえるようなところですよ。

北浦委員

ハローワークもうちも瀬木山なので、逃げるときにくねくねと曲がるんですね。尾鷲港新田線を早く作ってもらえると、一直線に逃げられますので。あと2～3年ですか。

大和課長補佐

2～3年で墓が移動してという感じです。

中村委員

あそこがすとーんと通るとかなり安全ですね。うちから中村山まで徒歩で15分くらいで、地震発生から津波の到達までがハザードマップで10分くらい、走って逃げれば逃げられないこともないのかなと。隣の年金事務所が3階建てなので、当初はその上まで逃げさせてという話をしていたのですが、シミュレーションすると上まで全部潮が来るらしいんですね。釜石の方の漁協の4階建てか5階建ての建物は壁が全部ボロボロになっていました。

松井座長

私も宮城県の被災地に行きました。3階建ての小学校の屋上に出る出口に軽トラが入っていました。だから3階までいったということですね。

中村委員

知り合いの友達の4階建ての建物が完全にいつてしまったので。銀行は周りの壁がなくなって金庫だけが残っていました。どれだけ早く逃げられるかというのが一番です。

松井座長

防災を考える上で、空き家問題は切実だと思います。所有権もありなかなか処理できないので課題があります。

奥村委員

指標の「防災・危機管理の満足度」と「地域医療の満足度」が目標値を下回った原因は把握できていますか。それが把握できていたら、今度はそれを解消できるという対処方法が立つのではないかと思います。

大和課長補佐

防災・危機管理の満足度については、平成26年で2.95で、これをベースに当時検討した中で目標数値を設定し、少しプラスの3.25と置いたと考えております。翌年の平成27年から若干下がり、そこから横ばいの状況が続いておりますが、26年から27年にかけて事業が大きく変わったというところが見当たらないこともありまして、0.2～0.3ポイント下がった状態が続いておりますが、この数値の分析は課内で話し合いますが、原因がわかるまでには至っておりません。

奥村委員

これはアンケートを取るんですね。

三鬼課長

尾鷲市まちづくりアンケートで総合計画の状況を把握するためにさせていただいているのが各項目

の基本です。防災については、以前から防災センターを設置するなど、防災には力を入れてきているまちでありますけれど、東日本大震災をきっかけに、住民意識の高まりについて市の状況がどう評価されるかというのが、基本的には3.0が満足度の基本です。それを下回っているということは、重要視はしているけれど達成度が相対的に低いということです。今防災担当の課長補佐が言ったように、やるべきことは率先してやっているのですが、それ以上のニーズ、要望があると理解しています。

ここに書いてある防災・危機管理の満足度と地域医療の満足度は、まちづくりアンケートで関心度が高く満足度が低いという、要求するものが高く重要度も高いけれど、やっтерことがそれほど評価されていないと言うと語弊があるかもしれませんが、市民の要求が高い2項目です。それに対する満足度を上げるには、並大抵のことではないところもありまして、市長も防災と地域医療の満足度を上げるには市としても力を入れておりますが、まだ追いついていないところも一部ございます。

塩津委員

例えば避難タワーを作っしてほしいと言っても、なかなか財政的に無理な話で、満足度はどうしても低いでしょうね。

三鬼課長

防災の方では避難タワーも検討させていただいているふうに、いろんな条件が整わないとできないところもございませうので、それも含めて今検討しているところです。

塩津委員

火力の跡地の都市公園ができた時には、避難をする道路の整備は絶対というのは条件でしょうから、そのあたりは尾鷲市もよくなっていくことでしょうね。

三鬼課長

そこは必ずしていかなければいけないと思っています。

塩津委員

跡地にいる人だけじゃなくて、その周辺の人でもありますからね、地震が来て災害があれば逃げることは皆一緒ですからね。

三鬼課長

地域住民が常にいらっしやるので、集客交流で来ていただいた方も大事にしなければいけないという、両方です。

松井座長

満足度は個人ですから、基準がなかなか定まらないところがありますからね。すごく難しいと思います。

北裏委員

ちょっとコマーシャルですが、12月4日に商工会議所の青年部が中央公民館でお子様向け防災のイベントをやりますので、よろしくお願ひします。

防災の面は、東日本がだんだん薄れてきていて、意識が薄れてきたのかなと思うので、やっていることはどんどん進化しているはずでう。

われわれ主婦の店とかCGCグループでやっているのは、ローリングストックをみなさんやっってくださいというのがあります。南海トラフが起これば当然尾鷲も被害を受けますが、名古屋、大阪もとなると、1週間分くらい尾鷲に物資が入ってこないという想定もありますので、ローリングストックをお家で各自やっただくということが、一番重要なことかなと思います。

私も何回か三陸の方を見に行っったときに、津波でやられたところもあるんですが、ここまでしか水が来なかった、ここから上は普通なんですね。でも彼らに聞くと、相当ひもじい思いを何日かしたという話もありますので、ローリングストックをチラシ等でPRするんですが、社員に聞いてもやってないというところも多いので、ぜひ皆さんでやっただくと助かります。

市の方の防災協定で、万が一被害を受けたら、うちの商品を出すという話になっているんですが、うちに今ペットボトルの水が何本あるかと言ったら、せいぜい100本〜200本のレベルなので、今こ

ういうご時世なのでジャストインタイムで運んでいます。

うちとしては現在、ぎゅーとら、マルヤスと3件で、亀山の方に防災倉庫を借りまして、水と無菌ご飯をストックしています。万が一があったら3社で取りに行き開けるということなのですが、尾鷲から行けるかどうかというのがあります。それを半年ごとにローリングで、そこに置いているものを店に持ってきて売らせていただいて、また新しいのを入れるということを東日本の後ずっとやっています。それ以外にもご家庭でローリングストックをやっていただくと助かるなと思います。

松井座長

おっしゃったことはスーパーだけではなくて、地元で商品を買うということが大事で、スーパーでたくさん買っているからたくさんストックも置けるわけなので、それってガソリンスタンドも同じだと思います。ガソリンスタンドも地元の人が安いからとよそで入れてきたら、地元のガソリンスタンドにガソリンをストックしないですね。

だから防災で、ものをまちにストックするためには、まちのものを買わないとなかなか難しいと思います。それはだいぶ前ですけど、三重大で四日市でやりました。ワンコインで商品を分ける作業を、自治会の人に来てやってほしいとなりました。なぜかと言うと、災害時にスーパーの店員さんも来れるとは限らないから、そういう協定にしましょうということです。ワンコイン、100円なら100円で、全部の商品、例えば紙おむつとかを売る。

北裏委員

今、尾鷲市も熊野市も、うちの出店エリアで防災協定を結ばせていただいているのですが、すべての商品については、ただではなくて金額を保証しますと。プラスなんですけど、それをうちがやるのではなく市の指示に従って商品を動かさないという協定です。

松井座長

そちらの方が一歩進んでいると思いますが、四日市の方はどんどん他の人が入ってくると困るので、秩序を守るという意味も大事なので、略奪になると困るのでワンコインとなりました。

北裏委員

地震が起こった場合は、店内は非常に危険なので、もしそういうことをやる場合でも外でやるということです。

松井座長

いろんな工夫があるんですけど、ものを尾鷲市にストックするという考え方を持たないと、なかなかそのあたりは難しく、そういう認識を持つのは時間がかかると思います。

塩津委員

5年の水は、だいぶ経っていたので、この間捨てました。

北裏委員

ローリングストックのご家庭のものは、基本的にここの倉庫に何日分あるというのではなくて、皆さん一人一人が持っていただけであれば、安泰なので。

5年の水とか乾パンとか、期限のあるものではなくて、普段使っているレトルトカレーとかそれを回しながら、買って来たものを半年で回すとか、常に古いものから使っていたりということです。

松井座長

1本余分に置いておくということです。乾物を必ず週に1回食べるとか、乾物をストックするとかです。

塩津委員

29ページの安心して暮らせる地域づくりというところで、尾鷲総合病院の高濱課長も見えているので、今、尾鷲総合病院は医師が少ないということで安心できませんよね。ぜひこのあたりを今後の方針として、医師不足を克服することなどそのあたりはどうですか。

高濱課長

満足度の実績値については、先ほど政策調整課長が言ったように、なかなか対象者が難しいということなのですが、昨年度参加させていただいた、第7次総合計画を組む時の委員の中のご意見で、満足度の中に救急医療という部分がありまして、救急医療を提供しているじゃないかと。それならば満点じゃないかという意見もありました。救急医療の提供自体、維持していることで満点をやってもいいんじゃないかという委員さんもいました。ただ受けた人が、その医療が良かったのかというシビアな結果なのかなというのがあります。

できることは維持していくということは大事ですけど、尾鷲総合病院でもやっぱり無理なものは無理ということがあって、その無理なことを要求されても救急として無理なのです。塩津さんが言われるように、出来る限りこの医師不足を解消してやれることを増やしてほしいということは、努力をしていなければいけないと思いますけど、それが市長の言う医師確保についてはやれることはすべてやるということで取り組んでいます。新年度に向けて新たな取り組みも考えていますので、市民の皆さんも病院を応援していただきたいというところです。

北裏委員

尾鷲の特殊性だと思うのですが、自分の知り合いで都会でドクターをやっている人は、非番の時にバイトをやったりして稼いでいるのですが、尾鷲に来たらもう一つの病院などバイトする先がないですね。

高濱課長

常勤医は、応援でバイトに行っている人もいます。ただ、夜間と土日の救急は勤務時間に支障がありますので、今13人の常勤医ですけど、救急医療が出来るドクターが5～6人しかいません。それではローテーションできませんので、平日が例えば20日で夜間20人、土日10日間だと昼間の10人と夜の10人で、合計40人の宿日直の要員がひと月で要るわけです。その40人のローテーションで30人以上、外の医者に来てもらっています。尾鷲から外へは行っていませんが、津・松阪地区からバイトというか応援で80%くらい夜間救急は外の医者に頼っている状況です。非常に厳しい状況でも何とか救急を24時間356日維持しているというのが現状ですので、理解していただきたいというのが我々の方でもあります。

松井座長

外から呼ぶのはすごく経費がかかってますよね。

高濱課長

そうなんです。

北裏委員

逆にこちらの勤務医の人がバイトをできないんですか。

高濱課長

バイトに行く余裕がありません。うちの病院を守っていただくだけで精いっぱいです。給料は公立病院では悪くはないと思います。

塩津委員

医師不足は病院だけに任せておかずに、市民も自分たちのつてがあれば、そういうことに力を貸すくらいの気持ちを持っていないと、尾鷲地区の2次救急の医療機関としては成り立っていかないと思います。

松井座長

コロナで医師のことが全く変わってきましたので、大変だと思います。

塩津委員

医師不足は尾鷲だけではないですからね。

松井座長

本当にいいですね。これは一例ですが、大学の准教授が3回外来に行くくらいですから、普通なら1回ですよ。それだけ医師不足になっているんですから、それも大変なことだと思います。

高濱課長

准教授が外来に立たれるのがそれくらいなのですが、尾鷲総合病院で一番大きな内科があるんですが、循環器腎臓内科、消化器内科、肝臓膵臓の外科の教授が尾鷲に来て外来もしてもらってますので、エキスパートの先生方も毎週来てもらっている教授もいます。

松井座長

腎臓も今の学長が来ていましたね。

高濱課長

学長と今教授ですね。

中西委員

コマーシャルではないのですが、うちは今、コミュニティチャンネルで防災行政無線をデータ放送で流させていただいています。L字で流していますというのが出てくるんですが、雨で聞こえないのがテレビから聞こえてくるということで、これが皆さんに知れ渡ったら防災・危機管理の満足度も上がるのでは。

松井座長

26ページのコミュニティーセンターの振興ですけど、若い世代の参加はどうかという点と、28ページの交通事故の件数は、先ほどの人口が減ったら事故も減るじゃないかというのもあるんですけど、今取りざたされていることで、横断歩道を渡る人がいたら停止する率というのが問題になっていて、尾鷲はどうなのかなと、それをどんどん高めていくことが交通意識を高めることになればいいんじゃないかなと。この頃、津はよく止まるようになっていて、逆に危ないくらい止まるので追突するような感じになるんですけど、そのあたりいかがでしょうか。

大和課長補佐

交通安全担当の市民サービス課は見えてないのですが、私も防災の前は市民サービス課にいましたので、最近、横断歩道で私が立っていると止まっている車は増えたなという感じはします。

中村委員

私がこの4月に来た当初は、ほぼ皆さん止まってなかったですね。ちょっと経ったら警察がものすごく取り締まりを始めて、うちの所にもパトカーを置いていただいて、目の前で取締りを集中的にやってみえたら、最近は結構皆さん止まられます。

松井座長

やはりそういう取り組みがあるんですね。
コミュニティーセンターの若い世代の参加はどうですか。

山本係長

私去年までその所属におりましたので、年齢層をはっきり統計取っているわけではないのですが、ほとんどが60歳以上の参加の方が多いです。それも女性が圧倒的に多いです。男性の参加も促したいと思って、講座の開催内容で工夫をしたんですが、やはり働いている方が60歳を超えても多いとか、女性が多いところへ、男性が行くのが難しいとか、そういうことで実情は解消できていないです。

【事項書3 地方創生交付金事業の検証について】

【事業番号1について 事務局川上より説明】

資料2-1をご覧ください。国の地方創生推進交付金を使った事業が3つあります。基本的にこの交付金事業は3か年ですので、上の1、2の事業は令和2年度から始めて4年度までの事業になります。3番目の事業は昨年度からの事業です。

では、広域連携事業である事業番号1番「こころ豊かにしごとと子育てができる移住促進事業」について、概略を説明させていただきます。

まず、事業の概要としましては、東紀州5市町で移住・就労支援、子育て支援を行い、三重県南部の東紀州全体で、豊かな自然、豊かな人など、東紀州の持つ資源を活用しながら都市部に向け東紀州全体が協調してPRすることで、1市で行うよりもスケールメリットを活かした、広域連携事業となります。

尾鷲市としての取組としましては、

【地域への定着に向けた移住体験促進事業・体験民家を利用した暮らしと仕事の就業体験プログラム】

【地域との多様な関わり創出事業】

【地域人材を活かした子育てHAPPY事業】

の3つの取り組みを行っております。

実績額については、総事業費2,671,407円、交付金充当経費が1,335,703円となっております。

次に、「重要業績評価指標」と「終了時における実績値と評価」につきましては、本事業においては3つの指標が定められており、それぞれご覧の数値となっており、担当課の評価としては「地方創生に非常に効果的であった」としており、今後の事業については、「事業の継続」としております。

また、実施主体別の事業概要と経費の内訳につきましては、資料2-2の2枚目の通りとなっております。

以上で事業番号1番の説明を終わります。

(質疑・意見)

中村委員

「体験民家を利用した暮らしと仕事の就業体験プログラム」ですが、これは空き家バンクを利用したりとかはしなかったのでしょうか。

錦係長

こちらは九鬼町に移住体験住宅「みやか」がございまして、そちらに例えばテレワークで見た方に泊まっていたり、「みやか」だけではなく他にも古民家がございまして、こちらに見えた方に移住体験をしていただいたという状況です。

中村委員

空き家バンクは、1週間だけ泊ってみるといった体験はできないのですか。

錦係長

今のところできていないのですが、それも考えていかなければならないなという話題はでております。

松井座長

せっかくですので、地域への定着に向けた移住体験促進事業を説明していただくことは可能ですか。

錦係長

はい。NPO法人おわせ暮らしサポートセンターというところがございまして、そちらの方で体験プログラムを組ませていただいて、例えば、土井見世の一部改修をしてもらったり、みかん農家の体験をしてもらいながら、「みやか」であったり古民家に泊まらせていただいて、その結果を聞き取りさせていただいて記事にしたりといったことをさせていただいております。

松井座長

モデル研究をするということですね。

錦係長

そういうことですね。

松井座長

では、地域と多様な関わり創出事業についてはどうですか。

錦係長

こちらもNPO法人おわせ暮らしサポートセンターなのですが、関係人口と言いまして、観光に来る人口でもなく移住までいかない、その間の部分で尾鷲市に何らかの関わりをもってもらう人口のことを言うんですが、そういった方を広げていこうという事業で、例えば土井見世をテレワークができるような施設として改修していったり、オンラインでバーチャルオフィスツールをやってみたり、尾鷲市で行っていくようなプロジェクトの発掘、既にあるプロジェクトをより良いものにしていくような、人とアイデアと情報、資金や資材などを結びつけるような企画を行っています。

ほかには、大手通信会社と共同で、半日は甘夏体験、半日はテレワークというような形も行っていますし、尾鷲出身の大学生と尾鷲出身ではない大学生が一緒になって、尾鷲におけるプロジェクトにかかわっていただいて、尾鷲をよりよくするためにはどうしていくのかということを考えていただくアイデア村、街歩きのプログラム、九鬼の空き家物件の整備などに関わっていただいたなど、尾鷲出身と尾鷲出身でない方が一緒になってやるということに、新たな気づきがあるのではないかと考えてやっております。

松井座長

最後に、地域人材を活かした子育てHAPPY事業についてお願いします。

平山課長

定住移住促進というところ、子育てをしやすいまちということで進めてきたところで、内容的には子育てイベントを執り行っています。

令和3年度は、夏休みにホラーナイトということで、中央公民館の図書館や講堂をお化け屋敷にみたてたイベントや、青空図書館ということで、子育て団体さんであったり読み聞かせ団体さんが中心になったイベントを実施しました。

先ほど若干申し上げました、お仕事体験ということで、地元の事業者さんに手弁当で参加していただきまして、持ち寄っていただいたお仕事体験イベントを執り行って、一緒に参加していただいたりといった形で子供の居場所であったり、こちらについては先ほどの放課後子ども教室とは違いまして、就学前の子供さんも対象にしておりますので、幅広く子育て支援がやりやすいきっかけづくりになればということで、開催したものです。

松井座長

25,000円で実施というのはすごいですね。手弁当ということですね。

平山課長

ほとんど手作りで、お化け屋敷の衣装はそれぞれ持ち寄ったり、図書館は図書館の絵本や本をメインでやっていますので、お仕事体験は各企業さんにすべてご用意いただいて、場所を貸すだけという形ですので、事業費自体は少ないです。

松井座長

今のお話を聞いて、KPIの達成に有効であったと思われる方は挙手をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

【全員挙手】

【事業番号2について 事務局川上より説明】

それでは、広域連携事業である事業番号2番「新型コロナウイルス終息後の国内及び外国人観光客に対するおもてなし向上推進事業」について説明させていただきます。

事業の概要としましては、東紀州5市町と三重県でコロナ禍が長期化しているなか、ウィズコロナ、アフターコロナを見越し準備期間と捉え、インバウンドへの対応や、国内外の観光客へのおもてなしの

ブラッシュアップなどを行い、この地域の観光振興の立て直しを図る目的で行っている事業であります。事業の実施主体は、三重県と東紀州5市町の職員で構成されている一般社団法人東紀州地域振興公社となっており、観光客の受入環境整備、体験メニュー整備、マーケティング調査、観光ウェブサイトの整備などとなっております。

尾鷲市としての実績額については、総事業費2,800,000円、交付金充当経費が1,400,000円となっております。

次に、「重要業績評価指標」と「終了時における実績値と評価」につきましては、本事業においても3つの指標が定められ、それぞれご覧の数値となっております。ここはマイナスがついているのですが、例えば「東紀州地域における観光入れ込み客数」であれば、当初値2,274千人とあり、令和2年度の目標はこれの維持であり増減がないので0となっております。実績値は2,274千人から-739千人であったという書き方になっています。令和3年度の目標は当初値に30千人足したいということなのですが、実績値はそこから-963千人であったという表記になっています。担当課の評価としては、コロナ禍ではありますが「地方創生に効果があった」としており、実績値を踏まえた事業の今後については、「事業の改善」としております。

事業概要と経費の内訳につきましては、資料2-2の3枚目の通りとなっております。

以上で事業番号2番の説明を終わります。

(質疑・意見)

松井座長

おもてなし品質向上事業支援に係る委託料で、どのような事業をやったかご紹介ください。

森本課長

こちらは東紀州振興公社、いわゆるDMOの方たちがやられている事業です。コロナ禍を打破するにはどうするのかという話がございまして、旅行者が安心・安全・快適に過ごせるよう、宿泊施設におけるおもてなしの品質の向上に向けた改善の取り組みを支援したというもので、東紀州で25施設やられたということです。

内容は利用者のアンケート、専門家によるおもてなしの研修会、施設自身によるセルフチェック、専門家による現地指導、施設の改善取組というものがやられておりまして、成果としては、アンケート結果、セルフチェック等を分析したうえで、改善取組を提案できたという報告を受けております。

松井座長

それはホームページ等でオープンにしますか。

森本課長

取り組み自体は公社のホームページ等で公表されています。

松井座長

そういう事例をちゃんと勉強できるようにするということですね。

森本課長

そうです。

松井座長

では、宿泊施設等受入体制強化に係る委託料についてはどうですか。

森本課長

そちらも公社でやられていますが、農家、民泊事業者の体験メニュー等がございまして、そちらの専門家を派遣する、磨き上げをするという取り組みをされていると報告を受けています。

松井座長

このことについても公に報告されるということですね。

森本課長

はい。

松井座長

次に、マーケティング体制強化に係る委託料について。

森本課長

こちらは東紀州地域のマーケティング調査分析事業をやっております。熊野古道来訪客調査、観光施設等利用調査、宿泊施設利用調査を実施し、データを収集し分析をするという取り組みをやられております。このデータに関しても、公社のホームページから閲覧することが可能となっております。

松井座長

この事業は今年度で終わりですか。

森本課長

データ調査については完了していますが、新たにそれを踏まえた上でのマーケティング調査はとらえられると。

松井座長

そのマーケティング調査をした結果を、事業所に戻すという事業が要りますね。

森本課長

そうですね。データ収集して分析したということにして、現状を再整理したということで、現状の課題を反映させていただき取り組みをやっております。

松井座長

最後に、プロモーション動画作成に係る委託料についてお願いします。

森本課長

インバウンドに対応したプロモーションの動画作成をしていただいております。台湾人のインフルエンサーを起用し、観光資源や体験メニューを盛り込んだ台湾に向けたプロモーション動画を制作することで情報発信を行っています。これはユーチューブで公開されており、視聴回数は33万回で、見られている方も多くいるという分析になっております。

松井座長

台湾の方が見られているということですか。

森本課長

分析はしていませんが、総視聴回数33万回というとらえ方です。

北裏委員

言葉は台湾のものですか。

森本課長

そうですね、台湾人向けということでございます。

松井座長

日本人が見ても意味がないですね。

森本課長

はい、台湾人をターゲットとしております。

松井座長

これに令和4度の事業は継続中ということですね。

森本課長

そうですね、新たに、コロナ禍に対応した通過型から滞在型に切り替えるという取り組みで、公社の方が取り組んでいます。

松井座長

それでは、継続を良しとしていただくと、いうことで挙手をお願いします。

【全員挙手】

【事業番号3について 事務局川上より説明】

それでは、事業番号3番「雇用拡大を目的とした食品関連産業の市場マーケティング及び新しい販路開拓事業」について説明させていただきます。

まず、事業の概要としましては、市内事業者の生産活動を活発化させ、若者の働く場所の確保を行い自立して持続した経済活動が実施されるよう、新たな組織を設立し、消費者ニーズに合わせた市場マーケティングを実施することで、新たな販路開拓を目指すものです。先ほどの事業番号1番と2番は東紀州5市町が連携していましたが、この3番の事業の実施主体は、尾鷲市になります。

実績額については、総事業費2,011,990円、交付金充当経費が1,005,995円となっております。

次に、「重要業績評価指標」と「終了時における実績値と評価」につきましては、本事業においても2つの指標が定められ、それぞれご覧の数値となっており、担当課の評価としては「地方創生に非常に効果的であった」としており、実績値を踏まえた事業の今後については、「事業の継続」としております。

また、実施主体別の事業概要と経費の内訳につきましては、資料2-2の1枚目の通りとなっております。

以上で事業番号3番の説明を終わります。

(質疑・意見)

松井座長

これについては4つの細項目があるのですが、説明をお願いします。

森本課長

市内事業者の販路開拓支援費用ということで、紀北信用金庫様のご協力をいただいて事業を展開させていただいたもので、食の産業開発事業という形でさせていただいております。新規事業者の伴走型支援という形をとらせていただく中で、事業者向けオンラインセミナー、商品品評会、商品ブラッシュアップの取り組み、紀北信用金庫様の方で展開していただいた地域商品のWEB商談会、事業者訪問及び商品のブラッシュアップ、スーパーマーケットトレードショーへの出品というような形で、いろんな取り組みをさせていただいたところです。商談件数等も達成されているところでして、令和3年度については地道に成功しているという形になっております。

松井座長

その一環として、プロモーション動画を作ったり、いろんな発展的な事業をしたということですね。

森本課長

はい、そのとおりです。

松井座長

これも継続されるということでもよろしいですか。

森本課長

はい、尾鷲市地域経済活性化協議会を、松井先生、尾鷲商工会議所様、紀北信用金庫様、ハローワーク様にご協力をいただいて立ち上げさせていただいております。新たに尾鷲市でこういったことができるのかということを取り組まさせていただきます。こちらも伴走型支援、企業支援という形で取り組みを進めております。

松井座長

これを継続してもいいという方は、挙手をお願いします。

【全員挙手】

【事項書4 その他について】

松井座長

では、事務局からその他何かありますか。

【事務局川上より国のデジタル田園都市国家構想の動きについて説明】

国は「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指して、デジタル技術を使っていこうと動いております。まち・ひと・しごと創生総合戦略は国も作っており、尾鷲市の戦略もそれを考慮して作っているのですが、国はその戦略を「デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）」に改訂しようと動いており、年内には改訂すると聞いております。「地方公共団体は、新たな状況下で目指すべき地域像を再構築し、地方版総合戦略を改訂し」とありますので、今の戦略、昨年度もご議論いただいて、第2期の戦略を作ったのですが、おそらく国にあわせて内容を見直していく必要があるのではないかと考えられます。改訂の手引きは1月頃に示されるとのことですので、詳細が分かり次第、情報共有をさせていただきますと考えております。

以上です。

松井座長

今日の会議の内容については、事務局にまとめていただいて皆さんに読んでいただき、そのあと私が集約して直すということによろしいでしょうか。それでは、長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。これを持ちまして、令和4年度尾鷲市地方創生会議を終了します。

ありがとうございました。

以上